

## 栃木県認知症地域支援体制構築等推進事業の概要

## 1 認知症地域支援体制構築等推進事業（モデル事業）の概要

栃木県が、市町単位でモデル地域を設定し、先駆的に認知症地域支援体制を構築することにより、県内各地域にその成果の普及を図ることを目的に実施する事業（2か年継続事業）

## 【モデル事業の概要】

区分	地域支援体制構築事業	地域支援体制推進事業
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症対応コーディネーターの配置</li> <li>地域資源マップの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケア等のサポート</li> <li>はいかいSOSネットワークの構築</li> <li>認知症高齢者の家族のネットワーク化を図るための交流会の開催</li> <li>認知症サポーター養成講座，認知症キャラバンメイト養成研修</li> </ul>

## (参考) モデル事業の状況（平成19・20年度実績）

モデル地域	真岡市	塩谷町
人口	66,712人	13,544人
高齢者数（率）	11,316人（17.2%）	3,552人（26.2%）
事業対象エリア	市域全体	町域全体
実績 (平成19・20年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーターの養成 (合計 4,707人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーターの養成 (合計 805人)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット版認知症地域資源マップの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民ささえあいマップの作成</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>点訳版認知症サポーター養成講座テキストの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症啓発媒体の開発 (ポスター，ステッカー・DVD)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症介護家族交流会の開催</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の高齢者を支える地域ケアのネットワークの基盤の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内外の介護福祉関係者とのネットワークの構築</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域見守りネットワークの構築</li> <li>医療との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携体制の継続</li> <li>医療との連携</li> </ul>

## 2 モデル事業への取組の経緯

- 市では、高齢者やその家族が、笑顔で、住み慣れた家庭や地域において健康で生きがいを持ち、安心して暮らせるよう、「にっこり安心プラン（第5次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第4期宇都宮市介護保険事業計画）」を平成21年3月に策定。
  
- 同計画を策定するにあたり、今後ますます高齢化が進行すること、また、介護保険の要介護認定者やひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の増加、さらには認知症高齢者の増加が見込まれることなどから、重点的に取り組む施策として、「**認知症高齢者対策の推進**」をリーディングプロジェクトに位置づけた。
  
- 認知症高齢者対策を推進する上での課題として、認知症高齢者等を支援するため、認知症に対する理解や正しい知識の普及を図るとともに、認知症の予防や早期発見・早期対応や、認知症高齢者やその家族等を地域ぐるみで支える体制づくりが必要であると考え、今回、栃木県が実施する認知症地域支援体制構築等推進事業に参加することとした。

## 3 モデル事業の取組の考え方

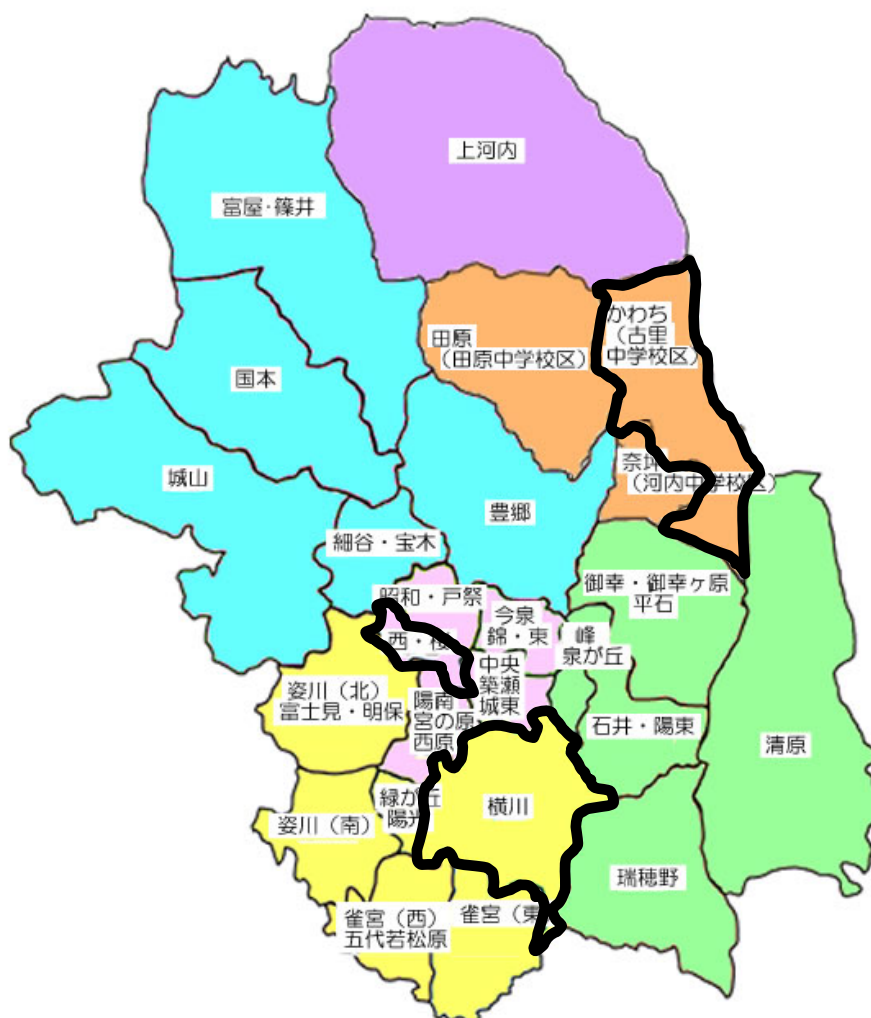
地域ネットワークの構築及びモデル事業終了後の継続性を考慮し、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進等を包括的に支援する機関である地域包括支援センター（日常生活圏域）を中心としたモデル地区を設定し、各種事業の展開を図る。

## 4 モデル地区の設定

モデル地区は、本市の地域特性（都市部、周辺部、農村部）や高齢化率、地域資源等を考慮し、3地区を設定

【モデル地区及び概要】

モデル地区	横川	古里中学校区	西, 桜
担当地域包括支援センター	よこかわ	かわち	さくら西
地域特性	周辺部	農村部	都市部
高齢化率 (市/18.8%)	14.6%(低)	18.4%(平均)	24.8%(高)
地域資源等	地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健センター, 総合福祉センター, 中央公民館, 総合体育館などの公共施設が, 多く整備されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健福祉に関する公共施設は少ない。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域独自の認知症家族会が活動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内の老年人口構成比が市内で1位と高く, 1世帯あたりの人員が市内3位と少ない。</li> </ul>



## 5 モデル事業の取組内容

モデル事業期間中（平成21・22年度）、以下の事業について取り組む。

### （1）地域支援体制構築事業

#### ア コーディネーターの配置

- ・ 関係者に対する専門的助言やモデル事業の実施のほか、地域におけるネットワークの構築の推進及びネットワークが機能していくための調整役の配置

#### イ 地域資源マップの作成

- ・ 認知症の人や介護者を支える地域ネットワークの構築を目的に、モデル地区の地域包括支援センターを中心に関係機関が連携した、「地域資源マップ」の作成

### （2）地域支援体制推進事業

#### ア 認知症ケア等のサポート

- ・ モデル地区内の介護従事者や関係機関を対象とした事例検討会の開催

#### イ はいかいSOSネットワークの構築

#### ウ 認知症高齢者の家族のネットワーク化を図るための交流会の開催

#### エ その他の独自事業

- ・ 認知症サポーター養成講座・認知症キャラバンメイト養成研修
- ・ 市民への周知，ポスター・パンフレット等の作成・配布 など